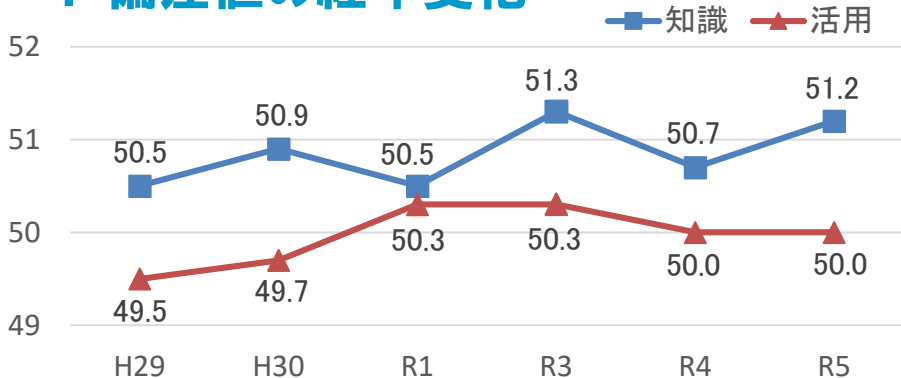


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50以上である。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	53.9	50.9	52.0
思考・判断・表現	51.3	50.7	51.0
主体的に学習に取り組む態度	46.6	46.5	46.1

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
地理	55.8	53.6	53.8
歴史	48.9	47.7	48.9

○地理、歴史ともに全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	52.1	50.9	52.1
短答	61.4	54.9	53.8
記述	41.0	41.1	40.0

○「選択」「短答」において、全国正答率を上回っている。
 ▲「記述」において、全国正答率を0.1P下回っている。

■ つまずきが見られた問題

大問4(3) 県正答率28.0% 全国正答率26.1%

【ねらい】ヨーロッパ州の特色について、資料をもとに考察できるかどうかを見る。

【つまずきが見られた内容】

ヨーロッパ州の国々の統計資料から必要な情報を読み取り、既習内容と関連付けながら、ヨーロッパ州の地域的特色を考察すること。

◆ 指導のポイント

○下記のどの段階でつまずいているのか実態把握し、支援・指導していく。

①【基本的な内容の理解】

ヨーロッパ州の国々の位置を理解している。

※〔A世界と日本の地域構成〕

緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域構成を大観し理解している。

②【資料を読み取る】

ヨーロッパ州の国々の統計資料(農業生産額、工業生産額、地域統合の歴史)から必要な情報を読み取る。

※「社会的事象について調べまとめる技能」

③【読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する】

②をもとに、既習内容と関連付けながら、ヨーロッパ州の国々の地域的特色を考察する。

※「社会的事象の地理的な見方・考え方」

★ 指導の具体例

複数の資料から読み取ったことを表に整理し、比較して見出した共通点を、既習内容と関連付けて考察し表現する活動。
(課題例) 統合を進めてきたEUでは、どのような課題が生じているのだろうか。

①【基本的な内容の理解】

地図帳を活用し、主なヨーロッパ州の国々の名称と位置を理解させる(索引を使って国の位置を探す活動など)。

②【資料を読み取る】

- 表題や出典等を確認させる。
- 課題解決につながる情報を抽出するように留意させる。
- 資料から読み取れる事実を表に書かせる。

③【読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する】

- 既習内容である「ヨーロッパの農業の特色」と関連付けながら、班で課題を追究させる。

資料から読み取れること①

小麦の生産量が多い国

一人あたりGNIが高い国

EU (EEC、EC) 加盟年が早い国

資料から読み取れること②

小麦の生産量が少ない国

一人あたりGNIが低い国

EU (EEC、EC) 加盟年が遅い国

既習内容

- ・フランスはヨーロッパ最大の農業国であり、EU (EEC、EC) 発足当時の加盟国である。
- ・東欧はEU加盟年が遅い。

関連付けて考えられること(考察)

EUの中でも加盟年の早い国(西ヨーロッパ)と遅い国(東ヨーロッパ)との間で、経済格差が生じている。